

[社 会]

児童の学びを深める効果的な資料の提示方法

古川 康成*

1 はじめに

学習指導要領解説「社会編」(2008)では社会科改訂における改善のポイントを読解力・表現力育成の観点から、「地図や統計などの各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することを一層重視する」⁽¹⁾としている。具体的な改善を図る観点として、必要な情報を的確に記録し、比較・関連付け、総合しながら再構成する学習や、考えたことを自分の言葉でまとめ、伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習の充実があげられている。また、評価においても「観察・資料活用の技能」が社会科で育てるべき技能であることがより明確になり、資料活用能力のさらなる向上が求められている。

その背景には、これまでの小・中学校教育課程実施状況調査の結果から明らかになった、児童の資料活用能力の低下傾向がある。北(2005)はこれまでの学力調査において資料活用能力の全学年的な低下傾向が見られることを明らかにしている。原因の一つとして、活用される資料が写真、イラストなどの映像的なものや実物資料が多く、地図やグラフ、統計、文書資料など複数の資料と関連付けて読み取ることができる資料の数が減少傾向にあることをあげている。⁽²⁾特に、我が国の産業や国土の様子などを学ぶ第5学年の社会科学学習においては資料活用能力の低下が顕著であると述べている。森分、片上(2001)は資料活用能力を、「既存の資料を収集、選択、読み取り、分析、批判したり自ら資料を作成、管理し、そのために必要な情報機器を活用する能力」⁽³⁾と定めている。つまり、多様な資料の中から課題を見出したり、課題解決のために収集したり読み取ったりした必要な事柄を、適切な方法で表現する力である。そのためには、資料を正確に読み取り、目的に応じて効果的に活用する力が求められる。有馬(2007)は資料活用能力の向上を図るためには、資料の読み取りを繰り返し指導することや、主体的な学びを生むために多様な学習活動が効果的であると述べている。⁽⁴⁾また、鳥居(2012)は統計資料を読み取るために調査結果を分析し、支援カードや補助資料・発問など具体的な支援を行うことが資料を読み取る力を高めることにつながり、学習意欲も高まることを明らかにしている。⁽⁵⁾このように、先行研究や調査結果からも資料活用能力の必要性や育成の方法が示されており、効果をあげている。

2 主題設定の理由

本校の5学年のこれまでの社会科の授業をふり返ると、資料を提示しても内容を十分に理解できなかつたり、課題にあった的確な資料を収集・選択できなかつたりする様子が見られた。また、Webテストの結果から、複数の資料を関連付けて分かることを読み取る問題の正答率が低いことが明らかになるなど、資料の活用について課題が見られた。特に統計資料については一つの資料に複数の情報が含まれている場合があり、読み取る視点が定まらないまま、分かる情報だけを抜き出す傾向が見られた。

資料の活用能力を高めるためにはその資料が何を意味しているか、その資料が何についての資料であるのか、また、単位は何であるかという基本的な事項を読み取らなければならない、正しく理解していなければたとえ資料を選択したとしてもそれを活用しながら問題解決することはできない。これまでの経験から5学年では、学習の対象範囲が市・県内から日本全国に広がることで、資料の難易度が上がり、資料が表す事実を十分に読み取れず、効果的な活用ができていなかったのではないかと感じていた。しかし、資料によっては教師の予想以上の反応があったり、学習のねらいが同じでも、提示方法によって児童の考え方が様々である場合もあった。

* 小千谷市立東小千谷小学校

そこで本研究では、資料の提示方法に焦点を当て、児童が資料から思いや考えを見出し、自ら学習課題を追究するために効果的な学習のあり方を探る。具体的には、学習のねらいに即して主体的な学びをする効果的な資料活用のあり方について、問題解決的な学習過程の中で資料活用における学びと提示方法の長所と短所を明らかにする。

3 研究の目的

本研究は、5年生の社会科授業において学習課題別に資料の提示方法を変え、学習した内容を分析することで、児童の学びを深める効果的な資料提示の在り方について検証する。

4 研究の内容と方法

(1) 研究の内容

① 資料活用能力の検証と考察

大森、次山（1993）は資料の定義として、「学習指導に当たって、指導者が教育目標を達成するために、学習指導をするときの素材となるものや学習をより効果的に促進することに役立つ素材で、事実的、経験的なものの中から教育的に選択し、場合によっては視覚的に加工して、子どもの学習過程に即して用いる材料」⁶⁾としている。

本研究では資料活用能力の定義を受けて5学年の資料活用能力を次のように設定した。

- ア 課題内容を把握し、その解決を図るために必要な資料を選択し、活用する能力。
- イ 資料の内容を分析し、事実を読み取り、課題を設定する能力。
- ウ 複数の資料を分析・総合し、比較対応しながら関連付け、社会的意味を見出す能力。
- エ 見出した事柄を他の資料でさらに吟味して再構成したり、これを応用したりする能力。
- オ 資料を用いて結論を吟味し、応用的に適用していく中に新たな問題を関知する能力。

本校児童の資料活用能力の課題は、「課題にあった的確な資料を選択できない」→「ア資料選択能力」、「資料を提示しても内容を十分に理解できない」→「イ課題設定能力」、「複数の資料を関連付けられない」→「ウ総合活用能力」がないことである。そこで本実践では、上記ア、イ、ウの3項目を重視し、児童に身に付けさせたいと考えた。学級別に資料の提示方法を変え、それぞれの児童が読み取った内容を比較、分析し、資料活用における学びについて検証、考察する。

② 提示方法別資料の長所と短所

本研究では検証授業において資料を次のように提示し、その提示方法のそれぞれの長所と短所を明らかにする。

- | | |
|------------------|------------------------------|
| ア 授業の導入で提示する資料 | イ 課題に対し、自己の考えを確かめる、補足するための資料 |
| ウ 自己課題を設定するための資料 | エ 自己の考えの根拠となる資料 |

(2) 研究の方法

① 検証授業の目的と資料の吟味

5年生の社会科授業において考えを深めるための資料を2学級で学習課題別に変えて提示することで、提示方法別の資料活用能力の効果について検証する。学習のねらいに即して資料を提示していくための学習の過程を重視した学習計画を作成する。提示するそれぞれの資料から何が読み取れるか、どのようなことが予想できるか十分吟味させることで、資料から必要な情報を読み取らせ、社会事象の意味について考える力を育てていく。

② 考えを深めるための資料の提示方法

A組は資料を提示し、そこから課題を見出しながら班や個人で課題を解決していく授業を中心に行う。B組は、課題からわかることを予想し合い、課題を解決するための具体的な手がかりや理解させるための手段として資料を提示する。また、課題に対しその根拠となる資料を収集、選択する授業も展開する。

5 授業の実践

(1) 実践1 これからの食料生産（全3時間）

- ① 単元のねらい 日本の食料生産が抱えている問題を統計資料から調べ、自分たちの食生活を見直すことで、これからの食料生産のあり方についての考えをもつことができるようにする。

② 学習のねらいとクラス別の指導計画

| 時間 | ねらい | A組：主に資料から課題を設定する | B組：主に資料を課題解決の手段とする |
|----|--|--|--|
| 1 | 日本は食料の多くを外国からの輸入に頼っている問題に気づき、食糧の自給を高めていくことの大切さを理解できるようにする。(資料1～3) | <ul style="list-style-type: none"> ・各国自給率，食料別自給率，食料別輸入量の統計資料から読み取れることを班で考えて発表する。 ・各国自給率，食料別自給率，食料別輸入量の統計資料から変化の原因や背景を資料を関連付けて班で予想する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・夕食の献立を思い出し，外国から輸入されている食料を統計資料で調べる。 ・各国自給率の統計資料から変化の原因や背景を考えて予想する。 ・外国からの食料の輸入が増えたときの影響を考える。 |
| 2 | 世界の食料事情を知り，自分たちの食生活を見直すなかで，計画的に食料生産を進めていくことの大切さについて考えることができる。(資料1，4，5) | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでのグラフ資料を見て，もし輸入が止まったらどのような影響があるか考える。(学級の共通課題) ・世界人口の推移，耕地面積統計の変化グラフを見て世界の食料問題について考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各国の自給率が全体的に低下傾向にある理由を予想する。 ・世界人口の推移，耕地面積統計資料を見て予想の確かめをする。 ・これからの食料生産に関する取組をインターネットを活用して調べる。 |
| 3 | 日本の食料生産が抱えている問題から，自分たちの食生活を見直す中で，これからの食料生産のあり方について考えをもつ。(資料全て) | <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習した資料を使って，これからの食料生産のあり方について自分の考えをまとめる。 | |

③ 提示資料（全てグラフ資料）

資料1 主な国の食料自給率の変化 資料2 主な食料（米・小麦・肉類・野菜・果物・魚類）の輸入量の変化

資料3 主な食料（米・小麦・肉類・野菜・果物・魚類）の自給率の変化 資料4 世界の人口の変化

資料5 世界の耕地面積の変化

④ 授業の実際

| 組：資料提示 | A組：主に資料から課題を設定する | B組：主に資料を課題解決の手段とする | |
|--------------|---|--|--|
| 1 時間 目 | 資料内容 と活用法 | 各国の自給率の変化・日本の食料の輸入量の変化・食糧の自給率の変化のグラフを提示し，その資料から課題を設定する。【提示方法ウ】 | 各国自給率の推移グラフを提示し，日本の自給率低下の原因を予想後，食料別自給率，食料別輸入量の資料を提示し予想を確認する。【提示方法ウ・イ】 |
| | 主な発問 | 各国自給率，食料別自給率，食料別輸入量の統計資料からわかることや読み取れることを理由を入れて班で考え，発表しよう。 | 各国の自給率の変化グラフを見て，日本の自給率が低下した原因や今後の影響を考えよう。資料や教科書を読み取り，確かめよう。 |
| | 児童・班 の考え ※全8班， 複数回答 | <ul style="list-style-type: none"> ・1つの資料から一部の变化を読み取る (8) ・1つの資料から全体の傾向を読み取る (4) ・複数の資料を関連付けて分かることを読み取る (1) ・読み取った情報から理由を入れて考えを予想 (2) | <ul style="list-style-type: none"> ・安全性に不安がある (12) ・日本の農業や漁業が衰える (21) ・日本の自給率が下がる (8) ・生産増加による森林伐採などの環境破壊 (7) ・外国で消費する食料が少なくなる (5) ・輸送費や輸入増加で日本のお金が減る (3) ・日本の食文化が和風から洋風になる (3) ・輸出入が盛んになり交通網が発達する (3) ・インターネットの買い物が増える (2) |
| 2 時間 目 | 資料内容 と活用法 | 各国の自給率の推移グラフを提示し，その理由を予想した後，世界人口の推移，耕地面積の変化グラフ資料から読み取れること，分かることを考える。【提示方法ア・ウ】 | 課題に対する自分の考えを予想する。世界人口の推移，耕地面積の変化グラフを提示し，自給率の変化から世界の食料問題を確認し，根拠となる資料を選択する。【資料提示エ】 |
| | 主な発問 | 世界人口の推移，世界の耕地面積の変化グラフから読み取ったことをもとに，これからの日本の食生活について考えよう。 | これからの食料生産に関する取組をインターネットを活用して調べ，関連する資料を選ぼう。 |
| | 児童の考 え ※複数回 答 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活改善に関する意見 (9) ・世界中の食料不足問題や対策に関する意見 (8) ・耕作地に関する意見 (7) ・生産増加に関する意見 (6) ・一般的な日本の食生活についての意見 (4) ・その他 (4) | <ul style="list-style-type: none"> ・荒れた田んぼを麦畑に転作する (12) ・食糧自給率向上に貢献している会社の取組 (7) ・面積当たりの収穫量を増やす品種改良の取組 (5) ・工場野菜を大量生産する取組 (4) ・「みんなの良い食プロジェクト」で食の大切さを知らせる取組 (3) 製品の差別化 (1) ・トレーサビリティシステム (3) ・バイオテクノロジー技術による商品生産 (1) |
| 資料内容 と活用法 | これまでに提示した資料5つと資料集の2つの資料を見て，自分の考えをまとめる。【資料提示エ・イ】 | | |

| | | | |
|------------------|----------------|--|--|
| 3 時 間 目 | 主な発問 | これまで学習した資料を活用して、これからの食料生産のあり方について自分の考えをまとめよう。 | |
| | 児童の考え ※複数回答 | <ul style="list-style-type: none"> ・一つの資料から分かることをまとめる (14) ・一つの資料からこれまでの学習内容を関連付けて総合的に読み取る (14) ・複数の資料を関連付けて総合的に読み取ったことをまとめる (11) ・複数の資料を関連付けて総合的に読み取ったことを自分の考えを入れてまとめる (12) | <ul style="list-style-type: none"> ・一つの資料からわかることをまとめる (8) ・一つの資料からこれまでの学習内容を関連付けて総合的に読み取る (7) ・複数の資料を関連付けて総合的に読み取る (7) ・複数の資料を関連付けて総合的に読み取ったことを自分の考えを入れてまとめる (5) ・資料を根拠に自分の考えを入れてまとめる (6) |

⑤ 考察

ア「課題内容を把握し、その解決を図るために必要な資料を選択し、活用する能力」について

主に資料を課題解決の手段とするB組では、全体の課題に対する答えを自由に予想させることで多様な考えが発表された。その確かめとして資料を提示することで、必要な資料を選択し、課題の解決へと迫ることができた。反面、これからの食料生産に関する取組をインターネットを活用して調べたが、食糧問題の本質に迫った上での適切な資料をそれほど収集することはできなかった。理由として、明確な学習課題をもたずに資料を収集した結果、的確な資料を選択できない児童がいたことがあげられる。これらのことから課題内容を十分吟味し、正確に理解することで、資料選択・活用能力が高まると考える。

イ「資料の内容を分析し、事実を読み取り、課題を設定する能力」について

主に資料から課題を設定するA組では授業の導入で3つの資料を提示し、分かることを総合的に読み取り、課題を設定することをねらいとした。資料の一部分から読み取ったことを課題とする班が多く、読み取った情報を総合して課題を設定したり、複数の資料を関連付けて読み取り、課題を設定したりする班は少なかった。しかし、次時では、グラフから読み取ったことをもとに、多様な課題を設定することができた。これは前時の発表の際、班で読み取った情報について意見を交流し合うことで、資料を読み取る概念が広がり、多様な課題設定につなげることができたと考えられる。

ウ「複数の資料を分析・総合し、比較対応しながら関連付け、社会的意味を見出す能力」について

第3時では両組ともこれまでの学習の振り返りとして資料をもとに自分の考えをまとめた。A組では全体的に資料を根拠として自分の意見を明確に伝えられる児童が多く見られた。特に、1つの資料からこれまでの学習内容を関連付けて総合的に読み取ったり、複数の資料を関連付けて総合的に読み取ったりする、「資料を関連付けて選択したり、再構成したりする」児童が顕著であった。例として、「魚の消費量と生産量、輸入量のグラフから日本がほとんどを消費している事に気付いた」、「人口が増えているにもかかわらず耕地面積は増えない。将来は食べたとしても食べられないかも」、「面積が広い生産国は効率がよく大量生産できるので自給率が高い」などである。これらは、課題設定に制限をかけず、自由な発想で考えたこと、その情報を積極的に伝え合うことで意見の交流が活発になり、資料活用の思考を促した成果と考える。B組では「資料を根拠として自分の意見を明確に伝える」児童があまり見られなかった反面、「調べ学習で分かったことや資料を根拠に自分の考えを入れてまとめる」意見が多く見られた。A子は、「世界の人口が増えているのに耕地面積はそれほど変わらないのでどうなるか不安に感じた。しかし、これからの食料生産に向けて、たくさんの工夫がされていて安心した。」と述べている。また、B子は、「世界の食糧自給率が低下し、世界の国々が輸入できなくなっていつかは食料がなくなるかもしれない。なので、今、行われている様々な取組をもっともっと活用して、世界の食糧自給率を取り戻して欲しい。」と述べている。このように、これまでの資料で学習したことに加え、調べ学習で獲得した考えをもつことで、より主体的な思考・判断につなげることができたといえる。

(2) 実践2 水産業の盛んな地域を訪ねて (全3時間)

① 単元のねらい 水産業が盛んな地域について調べ、その地域の特色や、人々の工夫や努力、悩みをとらえさせるとともに、水産資源や環境を守りながら漁業を進めていくことに気付かせる。

② 学習のねらいとクラス別の指導計画

| 時間 | ねらい | A組：主に資料から課題を設定する | B組：主に資料を課題解決の手段とする |
|----|--|---|--|
| 1 | サンマを捕る人の仕事の様子から水産業について調べるとともに、海で働く人たちの工夫や努力に気付くことができるようにする。(資料1) | ・サンマ漁の様子のイラストを見て、どんな方法でサンマを捕っているか、サンマ漁の工夫は何か、サンマを捕る人の努力や苦労は何か考える。 | ・サンマ漁をどのような方法でとるか話し合い、予想から考えられるサンマ漁の工夫や、捕る人の努力や苦労を想像する。 ・サンマ漁のイラストを見て、予想を検証し、さらに分かることを話し合う。 |

| | | | |
|---|--|---|--|
| 2 | 育てる漁業について調べ、自然環境との関わりや今後の水産資源について自分の考えをまとめることができる。(資料2, 3) | ・養殖業の生産量の変化グラフや養殖業の盛んな地域の地図を見て読み取ったことを発表する。 ・発表したことを聞いて疑問に思ったことを課題として設定し、課題別に調べ学習をする。 | ・魚の生産量が少なくなってきた理由を考え、養殖業について意識を持つ。 ・どのような水産物が養殖されているかこれまでの学習内容を振り返り考える。 ・養殖業の生産量の変化グラフや盛んな地域の地図を見て読み取りを発表する。 |
| 3 | 漁業の制限や水産資源の減少について調べ、漁業に携わる人々の悩みや願いを捉えることができる。(資料4～7) | ・資料4～7を提示して、内容を読み取り、日本の漁業問題について考える。 ・考えたことからさらに疑問を見付け、みんなで考える。 ・これからの日本の漁業のあり方について自分の考えをまとめる。 | ・これまでの学習を振り返り、日本の漁業の問題点について考え、発表する。 ・資料4～7を読み取り、それぞれの考えを確かめる。 ・これからの日本の漁業のあり方について自分の考えをまとめる。 |

③ 提示資料

- 資料1 サンマ漁の様子 (イラスト) 資料2 養殖業の生産量の変化 (グラフ)
 資料3 養殖業の盛んな地域 (地図) 資料4 漁業生産量と消費量・輸入量の変化 (グラフ)
 資料5 漁業で働く人の数の変化 (グラフ) 資料6 日本の主な漁場と200海里水域 (地図)
 資料7 養殖業の被害額の変化 (グラフ)

④ 授業の実際

| 組：資料提示 | A組：主に資料から課題を設定する | | B組：主に資料を課題解決の手段とする | |
|------------------|---|--|---|---|
| 1 時 間 目 | 資料内容 と活用法 | サンマ漁の様子のイラストを見せ、分かることや疑問に感じたことを述べ合う。疑問点を他の資料や教科書で確認する。【提示方法ア・イ】 | | サンマ漁の仕方について予想を出し合い、そこから考えられることを発表する。サンマ漁の様子や他の資料を見て予想を確かめる。【提示方法イ】 |
| | 主な発問 | サンマ漁の様子からどのようなことが分かるか考えよう。 | | サンマをどのようにしてとるのだろうか。 |
| | 学習後の ふり 返り (観 点 別) の 意 見 数 | 主に関心・意欲・態度に関する 7 (35%) 主に思考・判断・表現に関する 4 (20%) 主に技能に関する 2 (10%) 主に知識・理解に関する 7 (35%) | 主に関心・意欲・態度に関する 13 (32.5%) 主に思考・判断・表現に関する 8 (20%) 主に技能に関する 9 (22.5%) 主に知識・理解に関する 10 (25%) | |
| 2 時 間 目 | 資料内容 と活用法 | 養殖漁業の資料を読み取り、分かることや資料から考えられることを発表する。出た意見をもとに新たな課題を立てる。【提示方法ウ】 | | 養殖について知っていることを述べ合い、考えや疑問点を共有する。資料で予想を確かめるとともに、考えられることを発表する。【提示方法イ・ウ】 |
| | 主な発問 | 養殖漁業の生産量の変化や養殖が盛んな地域の地図を見て養殖漁業の様子を読み取ろう。 | | 養殖業の様子や働く人の思いはどのようなものだろうか。 |
| | 学習後の ふり 返り (観 点 別) の 意 見 数 | 主に関心・意欲・態度に関する 3 (14%) 主に思考・判断・表現に関する 7 (32%) 主に技能に関する 7 (32%) 主に知識・理解に関する 5 (23%) | 主に関心・意欲・態度に関する 16 (39%) 主に思考・判断・表現に関する 9 (22%) 主に技能に関する 3 (7%) 主に知識・理解に関する 13 (32%) | |
| 3 時 間 目 | 資料内容 と活用法 | 複数の資料を提示して、内容を読み取り、日本の漁業問題について考える。考えたことからさらに疑問を述べ合い、全体の課題をする。【提示方法ウ】 | | これまでの学習を振り返り、日本の漁業の問題点について考え、発表する。複数の資料を読み取り、それぞれの考えを確かめる。【提示方法イ・エ】 |
| | 主な発問 | 複数の資料から日本の漁業の問題点を考えよう。 | | これまでの学習を振り返り、日本の漁業の問題点について考えよう。 |
| | 学習後の ふり 返り (観 点 別) の 意 見 数 | 主に関心・意欲・態度に関する 5 (15%) 主に思考・判断・表現に関する 14 (41%) 主に技能に関する 1 (3%) 主に知識・理解に関する 14 (41%) | 15 (20%) 25 (33%) 10 (13%) 26 (34%) | 主に関心・意欲・態度に関する 10 (30%) 主に思考・判断・表現に関する 12 (34%) 主に技能に関する 1 (3%) 主に知識・理解に関する 12 (34%) |

⑤ 考察

学習後の観点別の振り返りは、A組は思考・判断・表現と知識・理解、B組は関心・意欲・態度と知識・理解の内容が多かった。両組の比較では、A組では思考・判断・表現が、B組では関心・意欲・態度の割合がそれぞれ高く、他の観点は差がなかった。A組の思考・判断・表現の振り返りが多かったことに関しては資料を十分読み取ることで理解が深まり、新たな考えに至る児童が多かったと考えられる。B組の関心・意欲・態度の振り返りが多い理由として、これまでの学習内容を提示したり、新聞などの身近な話題をもとに十分、意見を交流したりする中で興味、関心をもって資料の解釈が行われたためと考えられる。全体の意見数を比較するとB組が多い。これは社会事象にかかわる多くの情報

から必要な情報を取り入れたことや、学んだことを想起し、さらに追究しようと発展的に思考することなど、多様な学びの視点が課題解決に生かされ、主体的な学習につながったと考える。

6 結果と課題

(1) 資料活用能力の検証と考察

ア 資料選択能力

疑問点を解決するために、課題内容を十分に把握することで的確な資料を選択し、解決する力を高める様子が見られた。また、課題を解決することで知識・理解面を高めることができた。

イ 課題設定能力

予想や疑問を解決するための手立てとして資料内容を吟味し活用することで解決につなげる様子が見られた。また、資料内容を十分理解することで新たな疑問が生じたり、考えを深めたりするなど、多様な効果が見られることが明らかになった。

ウ 総合活用能力

課題に対し複数の資料を比較対応しながら関連付けることで考えを広げていく様子が見られた。また、総合的に考えることで多様な視点から新たな課題を設定するなど、思考・判断力の高まりにつながることができた。

(2) 提示方法別資料の長所と短所

資料の提示方法の違いにより明らかになったことは、児童の読み取りの観点に特徴が見られたことである。自己課題を設定するための資料提示では主に思考・判断力が育成される。また、資料を課題解決の手段とするための資料提示では、導入の仕方も関連しているが、関心・意欲面が高まることが明らかになった。

資料を4つの方法で提示し、児童の考えを分析した結果、以下の長所と短所が明らかになった。

| 提示方法 | 長 所 | 短 所 |
|----------------------------|---|---|
| ア 授業の導入で提示する資料 | 児童の関心をひき、学習意欲を喚起できる。 | 最終的に資料内容と授業のねらいとを関連付けられずに理解を深められないことがある。 |
| イ 課題に対し自己の考えを確かめる補足するための資料 | 学習内容を理解するための具体的な手がかり、また理解させるための手段として有効である。抽象的な学習内容を具体化する手助けとなる。 | 説明内容を確認するための手立てとして提示され、児童の思考・判断力が深まらないことがある。 |
| ウ 自己課題を設定するための資料 | いろいろな読み取り方ができるため、多様な課題が設定できる。 | 学習のねらいに沿わない課題が設定される場合がある。課題が多様化することで、共通のねらいに迫ることが難しい。 |
| エ 自己の考えの根拠となる資料 | 必要な資料を適切に判断する能力を身に付けられる。資料をもとに自己の考えを述べるため、説得力のある論述となる。 | 根拠が資料に限定され、狭い視野での思考で終わる場合がある。 |

それぞれの資料提示方法にも長所、短所がある。短所を補うためには、別の提示方法の長所を生かした提示資料を組み合わせることが必要である。これは、複数の資料を比較対応しながら関連付け、社会的意味を見出す能力も高めることにもつながるものである。その組み合わせを考え、実践、検証していくことが今後の課題である。

7 引用・参考文献

- (1) 文部科学省 「小学校指導要領解説 社会編」 東洋館出版社 2008
- (2) 北 俊夫 「小学校社会科の資料活用能力の実態に関する研究」 岐阜大学教育実践研究第7巻 2005
- (3) 森分孝治, 片上宗二編著 「社会科重要用語の基礎知識」 明治図書 2001
- (4) 有馬恭彦 「社会科における児童の主体的な学びを支える観察・資料活用能力の育成」 熊本県立教育センター2007 p.4 (出典 <http://sakural.higo.ed.jp/edu-c/kokuryu/h19pdf/03.pdf>)
- (5) 鳥居久宮子 「第5学年における統計資料の読み取りへの効果的な支援のあり方」 平成24年度研修員報告書 香川県教育センター 2012.3 p.12 (出典 <http://www.kec.kagawa-edu.jp/curriculum/houkoku/hiraku/h24/2012s-07.pdf>)
- (6) 大森照夫, 次山信男他編著 「新訂 社会科教育用語辞典」 教育出版 1993